

## 形E2C/E2C-H

### アンブユニットの初期調整

#### 電源投入後の初期調整

検出物体がない状態において、電源投入後の各表示灯の点灯に応じて、まず次の調整を行ってください。

形E2C-G□4A単機能形		形E2C-JC4A 多機能形/形E2C-A□4A多機能形	
電源投入時の表示灯の状態	調整方法	電源投入時の表示灯の状態	調整方法
検出表示 (赤) (OPERATION)	感度調整 (SENSITIVITY)	モード表示灯	感度調整 (SENSITIVITY)
点灯	SENSITIVITY ボリュームをLOW (左回転) に廻し、検出表示 (OPERATION) が消灯となるように調整してください。	検出表示 (赤) (OPERATION)	SENSITIVITYボリュームをLOW (左回転) に廻し、モードDの表示となるように調整してください。
消灯	調整は不要です。	安定表示 (緑) (STABILITY)	
		A 点灯 点灯	
		B 点灯 消灯	
		C 消灯 消灯	
		D 消灯 点灯	調整は不要です。

### アンブユニットの感度調整

#### 形E2C-G□4A/単機能

順序項目	①	②	③
検出状態			
調整ボリューム	—		—
調整方法	設定距離Sから検出距離X=S/0.8を求めます。ただしXは各センサの最大検出距離以下となるようSを決めてください。	センサを検出物体からXの位置に調整し、ボリュームをHigh側 (右回転) に廻してONする位置で止めてください。	センサを再び最初の設定位置Sにもどして固定すると調整は完了します。

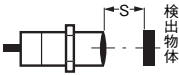
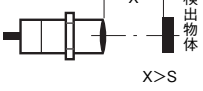
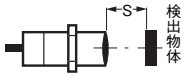

注. 周囲温度の変化が大きくて誤動作する場合は、さらに検出物体 (またはセンサ) を近づけてご使用ください。(設定距離の80%以下)

#### 形E2C-A□4A/多機能・形E2C-JC4A/多機能・形E2C-JC4□H/耐熱

順序項目	①	②	③	④
検出状態	—			
調整ボリューム				—
調整方法	MD調整ボリュームをMinとMaxの中間にしてください。	検出物体を所定の位置 (検出距離可変範囲) に固定し、感度調整ボリュームをゆっくりとHigh側に廻し、OPERATION表示灯 (赤) が点灯する位置で止めてください。	検出物体を必要応差分 (定格検出距離の1~5%) だけ離反させて固定し、MD調整ボリュームをゆっくりとMin側に回転してOPERATION表示灯 (赤) が消灯した時点で止め検出物体を動かし、所定の位置で動作することを確認してください。	次に検出物体をセンサに (または、センサ部を検出物体に) 近づけ、OPERATION表示灯 (赤) とSTABILITY表示灯 (緑) がともに点灯する位置で固定すれば調整完了です。

注. 周囲温度の変化が大きくて誤動作する場合は、さらに検出物体 (またはセンサ) を近づけてご使用ください。(設定距離の80%以下)  
形E2C-JC4Aには、MD (応差) 調整機能はありませんので順序②、④を実施してください。

形E2C-JC4AP/自己診断機能

項目	①	②	③
検出状態			
調整 ボリューム	—		—
調整方法	設定距離Sから検出距離 $X=S/0.8$ を求めます。ただしXは各センサの最大検出距離以下となるようSを決めてください。	センサ検出物体からXの位置に調整し、ボリュームを矢印方向に回してOPERATION表示灯(赤)が点灯する位置で止めてください。	センサを再び最初の設定位置Sにもどして固定すると調整は完了します。この時、STABILITY表示灯(緑)が点灯していること、また検出物体が無いときもSTABILITY表示灯(緑)が点灯していること。

注. 周囲温度の変化が大きくて誤動作する場合には、さらに検出物体(またはセンサ)を近づけてご使用ください。(設定距離の80%以下)

調整終了後は、誤操作防止のために付属のコーションラベルをカバーのボリューム穴部に貼りつけてください。  
(形E2C-JC4A、形E2C-JC4AP、形E2C-JC4□Hのみ)